

# ニュースレター



北海道大学 高等教育推進機構 Newsletter No. 115

特別講義「グローバル基礎科目」の紹介 (4ページ)

新渡戸カレッジ 新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)

(7ページ)

1年生, 3年生の自習時間—「平成30年度授業アンケート」と「2018年度学生調査」の結果より— (11ページ)

2019年度夏季休暇中における「全学インターンシップ」

を実施中 (13ページ)

一般教育演習「キャリアデザイン—自分の未来を自分で考えよう—」開講 (15ページ)

(詳しい目次は裏表紙にあります)

## 巻頭言 FOREWORD

### 新渡戸カレッジとスクールの統合

副学長 (新渡戸カレッジ担当) 山口 淳二

昨年度, 本ニュースレター No.112の巻頭言として, 私は, 「NITOBÉ教育システムの現在位置」と題し, 学士課程特別教育プログラム「新渡戸カレッジ」と大学院特別教育プログラム「新渡戸スクール」の状況について報告させていただきました。また, 同号から今回まで, 以下のように, これに関連した特集を連載させていただきました (執筆者の職位等は発行当時のものです)。

No.112

- ・新渡戸カレッジの新たな取組 (弐和順新渡戸カレッジ教頭)
- ・新渡戸カレッジのメンタリング・プログラムへのSpeed Mentoringの導入 (内田治子特任准教授)

No.113 (新渡戸スクール特集)

- ・新渡戸スクール (小田研新渡戸スクール教頭)
- ・基礎プログラム (辻輝之特任准教授)
- ・上級プログラム (繁富 (栗林) 香織特任准教授)
- ・学習支援-NITOBÉ PortfolioシステムとStudent EQ (今井匠太朗特任助教)
- ・メンターフォーラム (齊藤健特任助教)

No.114

- ・新渡戸カレッジ・フェローゼミの取組み (畑中貴美特任講師)

No.115

- ・特別講義「グローバル基礎科目」の紹介 (シュルーター智子特任助教)
- ・新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ) (肖蘭特任助教)

今回、新渡戸カレッジと新渡戸スクールの統合について説明させていただきます。1年前に私は、「カレッジとスクールは、本稿の最初に示したように共通の目標を持ちながら、しかし、独自に進化してきたものです。そして来年度には両者を統合し、学部-大学院を通貫した包括的な教育実施組織への刷新を図るべく、現在その検討を進めています」と記しました。この実現のため、昨年度「新渡戸カレッジ・新渡戸スクール統合検討WG」を設置し、その成案に基づき、今年度4月より統合が施行されました。以下概要です。

- ・統合後の名称は「新渡戸カレッジ」とする。
- ・「基礎プログラム」と「オナーズプログラム」の2段階からなる (図1参照)。
- ・旧新渡戸カレッジ及び、旧新渡戸スクールは、基礎及びオナーズの各プログラムにおける、「学部教育コース」及び「大学院教育コース」とする (図1参照)。
- ・基礎プログラムの履修期間は、学部教育コースは1年間、大学院教育コースは半年間とする。
- ・基礎プログラム履修生は、課題レポートを評価して選抜する。
- ・基礎プログラム学部教育コースでは、4月 (1学期) に仮入校、10月 (2学期) に正式入校して、1年後に修了する。一方、基礎プログラム大学院教育コースでは、年2回の入校制度 (春入校と秋入校) とする (図1参照)。

- ・オナーズプログラムへの入学者は、基礎プログラムの修了だけでなく、課題レポートや成績等の評価により決定する。
- ・オナーズプログラム学部教育コースでは海外留学単位の修得が必須要件となる。一方、大学院教育コースでは、これは必須ではないが、留学に伴う奨学金制度を新たに設置する (図1参照)。
- ・オナーズプログラム修了時には称号を授与する。

以上のような制度に基づき、今年度より6年一貫の新渡戸カレッジを開校しました。統合したといっても、オナーズプログラム学部教育コースを履修するカレッジ生がそのまま各プログラムの大学院教育コースに入校することはありません。上記入学には、まず、所属する学部・学科を卒業すること、そして本学大学院に入校する必要があります。その意味では、完全な「統合」ではありません。とはいえ、カレッジに在籍する優秀な学部4年次生が大学院教育コースの授業科目を「早期履修」できる制度や学部の「新渡戸学」の授業を大学院生が履修できる制度を今後整備し (図1参照)、両者の壁を限りなく低くすることで、シームレスな統合が実現するものと期待しています。

統合を検討するWGでは、制度上のすりあわせに先立ち、統合後の教育理念と人材育成の方針についても検討されました。教育理念については割愛させていただきますが、以下人材育成の方針について記します。

人材育成の方針：

新渡戸カレッジにおいては、本学の基本理念及び新渡戸稲造の精神に基づきつつ、各々の学問分野における高い専門性を修得するとともに、分野横断的な教育プログラムの履修を通して、以下に記す力を身につけ、それらを発揮できる人材を育成する。

○ 学部教育コース

- ・自分に対する力 (コミュニケーションツールとしての英語力、さまざまな文化的・社会的背景に根ざしたアイデンティティなど)
- ・他人に対する力 (グローバル社会で必要とされるチームワーク力、リーダーシップ力など)
- ・社会に対する力 (異なる文化状況下における問題発見力・課題解決力、社会的な責任と倫理など)

○ 大学院教育コース

- ・能力更新力 (社会の変化に応じて、新たに求められる知識を獲得し、自分を成長させていく能力及び創造的・批判的思考を相補的に駆使して計画・実践する能力)
- ・組織形成力 (多様な専門性を有する人々とチームを組織し、高いコミュニケーション力でリーダーシップに貢献することにより、共通の目標に向けて協働する能力)
- ・社会還元力 (社会的役割を認識し、責任感及び倫理観を持って、多様な状況下における課題を的確に把握し、それをより良い方向に解決していく能力)

以上のように、学部教育コースと大学院教育コースで表現は異なりますが、学生に対して同じ3つの能力を育成していくことを明記しました。

また、従来スクールでは博士課程学生を対象とした「上級プログラム」が設定されていましたが、こちらは、今回の統合に伴い廃止されました。しかし、本学には、博士人材育成機能に特化した人材育成本部や複数のリーディング大学院、卓越大学院、国際大学院が設置されています。今後は、これらの組織と連携しながら、本学の博士人材の育成に努めてまいります。

改めまして、皆様のご協力をお願い申し上げます。

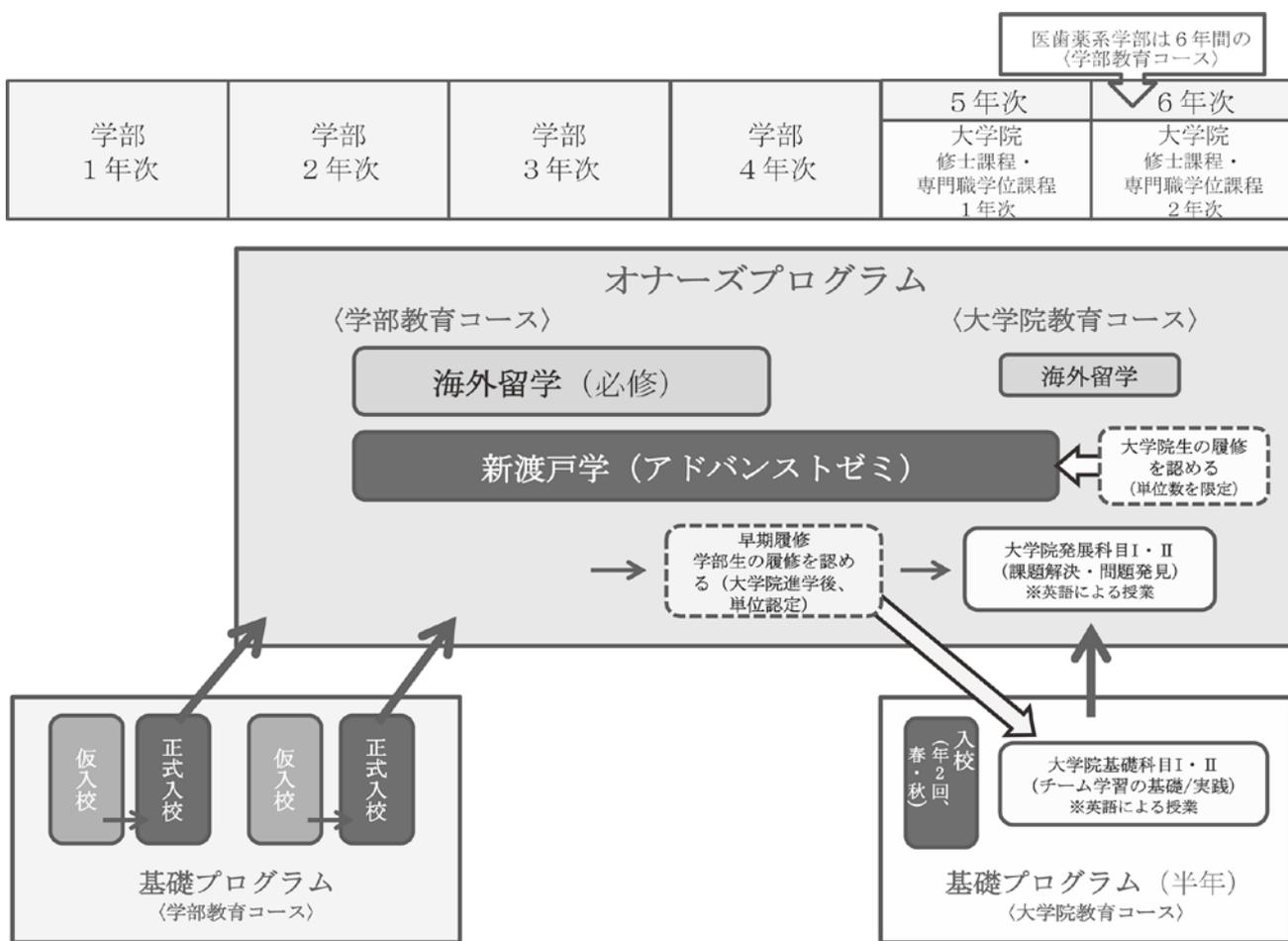


図1 新渡戸カレッジプログラムの概略図

# 高等教育推進機構 Institute for the Advancement of Higher Education

## 特別講義「グローバル基礎科目」の紹介

### はじめに

全学教育の特別講義「グローバル基礎科目」が1学期に開講されています。

本講義は、2017年度に新設された授業科目で、新渡戸カレッジの基礎プログラム（1年目）の必修科目となっています。新渡戸カレッジの基礎プログラムでは、入学以前の知識獲得を中心とする学習から、明確な目的意識に基づく能動的な学習への意識転換を図ることを目標に掲げています。留学支援英語等の授業でコミュニケーションツールとしての英語力の向上を目指すとともに、グローバル基礎科目で海外留学の意義とリーダーシップについての理解を深め、グループワークを通じてチームワーク力を身につけることが、基礎プログラムにおける学習の柱となります。

今年度のグローバル基礎科目は、春ターム「国際理解と海外留学」、夏ターム「リーダーシップとチームワーク」として、本講と補講に分けて実施しており、春タームは合計298名、夏タームは合計280名の学生が受講しています。今年度は、昨年度まで実施

していた新渡戸カレッジのプレースメントテスト（TOEFL-ITP）による入校選考を実施しなかったため、昨年度よりも100名近く履修者が増えました。履修者の内訳は、新渡戸カレッジ仮入校生の1年生が大半で、2年生の履修者は1割強となっており、仮入校生以外の学生も若干名含まれています。

### 春ターム「国際理解と海外留学」

春ターム「国際理解と海外留学」の授業では、国際経験の豊富な講師によるオムニバス形式の講義を通じて、国際理解の重要性と海外留学の意義を学びます。国際社会の課題や各研究分野の状況、留学の実態などを知り、学生自身がキャリアデザインの観点から留学の目的と意義を考えるとともに、今後の留学に向けて主体的・計画的に考え行動できるようになることが、この授業の目標です。

今年度は、本学の名誉教授で新渡戸カレッジのフェローを務める2名の講師を含む、6名の講師による講義が行われました（表1参照）。

表1 2019年度グローバル基礎科目・春ターム「国際理解と海外留学」スケジュール

回	タイトル	担当者（所属）
1	オリエンテーション	荒井 克俊（高等教育推進機構特任教授）
2	旅に出でよ	埴山 雅秀（名誉教授・新渡戸カレッジフェロー）
3	国際交流 ～私的か学術的か	佐々木 啓（大学院文学研究院教授）
4	双子連れハーバード留学	樋田 京子（大学院歯学研究院教授）
5	他人の中に埋没しない「私」－新渡戸稲造を学ぶ	玉城 英彦（名誉教授・新渡戸カレッジフェロー）
6	「グローバルに考える」とは？	水野 浩二（大学院法学研究科教授）
7	研究者を目指す君にとっての国際体験	荒井 克俊（高等教育推進機構特任教授）
8	学生による留学体験談	荒井 克俊（高等教育推進機構特任教授）

講師を担当していただく方には「授業の目標」と「授業の内容」および「キーワード」をあらかじめ提出していただき、授業初回のオリエンテーションの際、一覧表にまとめて履修者に配付しています。また、各講義の後には、講師から出される課題につ

いて小レポートを提出させることで、履修者が講義の内容を理解しているか、そして、課題に論理的に答えることができるかをチェックします。

新渡戸カレッジは学部横断プログラムであり、学生たちの興味や関心も多様です。この授業では、各

講師の専門領域と国際経験に偏りがないよう配慮するとともに、各講師にはそれぞれの立場から、学生それぞれの長期的なキャリアの中で留学を位置づけられるような内容を講義いただいています。すでに述べたとおり本講義の履修生は1年生が大半であり、さらに、従来夏タームに実施していた講義を春タームに実施しているためか、今年度は授業の欠席者が昨年と比べて少ないようです。ほぼ満員の講義室で熱心に講義を聴く学生たちを前にして、講師の先生方も話に熱が入り、予定時間をオーバーしてしまうこともしばしばありました。

また、授業の最終回では、昨年と同様に、すでに留学を終えた新渡戸カレッジ上級生のうち数名の学生に依頼して、留学体験談の発表と質疑応答を行うパネルディスカッション形式での授業を実施しました。留学体験談を発表する学生についても、学年や専攻、留学の種類などのバリエーションを持たせたことで、より多くの学生が興味を持って話を聴くことができたようです。実際に、普段の授業よりもく

つろいだ雰囲気の中、履修生からも多くの質問が出るなど、本講義にふさわしいしくりになったのではないかと思います。

今後も、単なる留学のプログラム紹介にとどまらず、学生が自分自身にとっての留学の意義を見出し、留学に向けての一步を踏み出すことができるような講義を引き続き目指していきたいと考えています。

### 夏ターム「リーダーシップとチームワーク」

グローバル基礎科目の春タームは座学の授業ですが、夏タームではグループワークを中心とする授業を展開しています。この授業では、望ましいリーダーシップについて考えるとともに、チームごとにリーダーシップ育成プログラムを提案します。授業のなかでリーダーシップについての自分の考えを深め、チームの中で自ら望ましいリーダーシップを発揮できるようになることが、この授業の目標です。

全8回の授業は、講義とグループワークの組み合わせで構成されています(表2参照)。

表2 2019年度グローバル基礎科目・夏ターム「リーダーシップとチームワーク」スケジュール

回	タイトル	形態	課題
1	オリエンテーション	講義	
2	新渡戸稲造に学ぶリーダーシップ	講義(弐和順教授)	レポート
3	世界のリーダーとリーダーシップ	グループワーク	グループワーク報告書 ワークシート
4	リーダーシップとは何か	グループワーク	グループワーク報告書
5	リーダーシップとは何か(発表) リーダーシップの育成	グループワーク	グループワーク報告書 ワークシート
6	リーダーシップの育成	グループワーク	グループワーク報告書
7	リーダーシップの育成(発表)	グループワーク	発表 グループワーク報告書
8	リーダーシップとは?	講義(池田文人准教授)	

この授業は昨年度まで春タームに実施されていたため、履修生のチーム分けが難しかったのですが、今年度は夏タームに実施することで、履修生が確定してからのチーム分けが可能となり、学部、性別、学年といった属性を考慮した、多様なメンバーからなるチームを編成することができました。グループワークの授業については教室を4教室に分けて実施しており、うち3教室はアクティブラーニングに対応した教室です。各教室には、1チームあたり5～8名程度のチームが8～10チーム割り振られていま

す。また、各教室に教員1名のほかTA1名を配置し、グループワークにもきめ細かく対応できる体制を整えました。

授業ではまず、新渡戸稲造に関する講義とレポート、さらに履修生自身の経験や世界で活躍するリーダーに関するワークシートに取り組みながら、リーダーシップについて考える準備を整えていきます。つづく5回の授業では、4教室に分かれてグループワークを行います。グループワークのセッションでは、ブレインストーミングやKJ法など、グループ

ワークの基礎となる手法を用いながら、リーダーに必要とされる資質と能力をテーマにチームごとの発表と評価を行います。続いて、望ましいリーダーシップを育成するためのプログラムを提案するという課題で、チームごとにディスカッションを行います。最後に、各教室で発表と評価を実施し、最も評価の高いチームが各教室の代表となって、履修生が再度一堂に会する最終回の授業冒頭で発表を行います。最後に、リーダーシップに関する講義を受講して夏タームの締めくくりとなります。

今年度の授業では、グループワークの際に毎回「グループワーク報告書」の提出を義務付けています。「グループワーク報告書」では、授業のふりかえりと次回のグループワークの課題を各履修生に確認するとともに、チームのメンバーに対する「SBIフィードバック」の記入を求めています。「SBIフィードバック」とは、フィードバックする相手に対して、その相手がどのような状況（Situation）で、どのような行動（Behavior）により、どのような影響を他のメンバーに与えたか（Impact）を具体的に示すフィードバックの手法です（日向野幹也『高校生か

らのリーダーシップ入門』ちくまプリマー新書、2018年、126-130頁参照）。このグループワーク報告書は、授業の最後に回収し、ふりかえりの部分と「SBIフィードバック」の部分切り離して、次回の授業の冒頭で返却しています。これまでのグループワーク報告書からは、チーム内でのディスカッションの様子が伺えるとともに、メンバー同士で互いの良さを伸ばし合おうとする姿勢が垣間見えます。

また、この授業では、チームでの発表の際に、発表評価用ルーブリックに基づいた評価を実施しています。ルーブリックは、各チームでの発表の準備に入る前に配付し、評価の観点についても説明して理解を促しており、授業中に2回実施する発表の際には、履修生もチームごとにルーブリックによる評価を行っています。なお、本授業での発表の評価に使用するルーブリックは毎年改訂を重ねていますが、今回のルーブリックは、高等教育研修センター開催の「ルーブリック評価作成ワークショップ(入門編)」(2018年6月15日)に出席した際に作成したものを基にしています(表3)。

表3 発表評価用ルーブリック

評価点 項目	大変よい (5~4点)	よい (3~2点)	もう少し (1~0点)	得点 (5~0点)
課題の提示	プログラムが明確に示されており、課題に十分に答えていた。	プログラムは示されているが、不明確・不十分だった。	プログラムが示されなかった。	
客観性	論点の根拠が客観的で、調査や検討結果に基づいた内容であった。	論点の根拠は示されているが、調査や検討が十分ではなかった。	論点の根拠が示されていなかった。もしくは、根拠が独断的であった。	
チームワーク	質疑応答を含め、チーム全員が発表に貢献した。	チームの中で発表に貢献していないメンバーがいた。	特定のメンバー(1~2名)しか発表に貢献していなかった。	
アピール&時間	資料や表情、ジェスチャーなど、聴衆にアピールする発表だった。発表時間は、ほぼ時間通りだった(±20秒以内)。	聴衆にアピールしようとする意欲が感じられる発表だった。発表時間は、多少前後していた(±40秒以内)。	聴衆にアピールしようとする意欲が感じられなかった。発表時間は、大幅にずれてしまった(±40秒以上)。	
<b>合計</b>				/20点

**【発表評価用ルーブリック②】**

- ・課題：リーダーシップ育成プログラムの提案
- ・発表時間4分。評価時間2分。

評価者(✓をつけて適宜記入してください)：

学生(チーム名： )

教員(名前： )

TA(名前： )

発表チーム名：

## おわりに

グローバル基礎科目は今年で3年目となる授業科目です。どの科目でも言えるかもしれませんが、本科目は、とりわけ多くの教職員の協力があったはじめて実現したものであり、これからも授業を実施する側のチームワークが問われ続けるのではないかと

感じています。本学に入学した学生のための導入教育として、そして新渡戸カレッジの基礎プログラムを支える科目として、本科目をより魅力ある内容に発展させていくことができるよう、今後ご協力いただければ幸いです。(シュルター 智子)



写真1 2019年度グローバル基礎科目・夏ターム(グループワーク)の様子

## 新渡戸カレッジ 新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)

2018年度から新渡戸カレッジの新カリキュラムでは選択履修科目として「新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)」が開講されています。本ゼミは合宿を含む継続的なキャリア・セミナーであり、学生が自分の夢の実現に向かって歩いていく道筋を明確にし、自らの未来を構築していくための力を養うことを目的としています。合宿では学生がフェロー、教員とともに1泊2日のワークショップに参加し、日常とは異なる空間での自己洞察を通して自らのキャリアを考えます。

「新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)」の前身となるものは、2016年度では「キャリアセミナー」、2017年度では「目標達成力向上ワークショップ」として実施されました。行事形式で年2~3回、1回につき2~3時間程度で行われましたが、2018年度から「新渡戸学」の授業科目として開講するに至りました。本ゼミは様々な名称と手法を用いながら現在に至るわけですが、自立・自律した若者を育成するために、学生がフェロー、教員の助言・支援の下で、自ら目標を設定し、目標の実現に向かって計画

的、継続的に取り組むとの変わらぬコンセプトを軸に実施されてきました。以下では、2019年度の具体的な内容について紹介します。

### 2019年度 新渡戸学 (セルフキャリア発展ゼミ)

今年度のゼミは9つの学部からの履修生16名、学生支援員2名、フェロー7名、教員4名の参加でした。フェローは、新渡戸カレッジフェロー制度(本学卒業生を中心としたフェローがカレッジ生の理解者・助言者として教育支援する制度)に基づいて選ばれた者です。ゼミの内容は2部構成となっており、5月25日に行われた第1部と6月22~23日に行われた第2部合宿からなります(表1)。

両セッションとも4つの要素を含めて構成されています。それらは、学生が「自分を知る」、「社会を知る」、「目標・行動計画を立てる」、「アセスメントをする」の4つです。学生は参加者とのディスカッションを通して、「自分を知る」、「社会を知る」ための気づきを得た上で、人生目標と学生時代にすべ

表1 2019年度「新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）」授業計画

時間	内容	目的
第1部 5/25	(1) オリエンテーション&アイスブレイク	お互いを知る
	(2) キャリアモデルを知ろう	社会を知る
	(3) これまでの振り返り&これからの抱負	自分を知る
	6月合宿までに達成する小目標の設定	目標を立てる
	5～6月 目標に向けて研鑽・進捗確認	
第2部 6/22～ 6/23	(4) GW：AIに取って代わられる仕事	社会を知る
	(5) 社会に求められるキャリアコンピテンシー	社会を知る
	(6) フェロー物語&キャリア曲線	社会を知る
	(7) GW：自分のエンプロイアビリティを考える	自分を知る
	(8) GW：キャリア目標と在学中の行動計画を立てる	目標と計画を立てる
	6～9月 行動計画を実行する	
9/28	フォローアップゼミ(1)	アセスメントをする
12/14	フォローアップゼミ(2)	アセスメントをする

きことや取り組む方法を考え、自ら立てた目標・行動計画に基づき、今後の学生生活で継続的に取り組んでいきます。そのなかで、フェローと教員の役割は、学生が「社会を知る」ために材料提供したり、「目標・行動計画を立てる」、「アセスメントをする」ための助言をし、学生の自律的な学びと自立・成長を支援することです。

5月に実施された第1部では、参加者がアイスブレイク・アクティビティをした後、フェロー、教員がそれぞれ、企業人、教育・研究者、アントレプレナーという3つのカテゴリーにおけるキャリアモデルについて講話をしました。このセッションの目的は、これまで企業に就職する、研究者になるといった漠然とした進路の方向性を持つ学生が、それぞれの進路におけるキャリア発展の道筋と自らの可能性を理解し、キャリアデザインのイメージをつかむことです。

その後に、学生同士が夢について語り合いました。本セッションのきっかけの1つは、同期の学生たちが何を考え、どのように取り組んでいるかについて知りたいという履修動機が多く見受けられたことです。授業の最後に、学生が合宿までに達成したい目標を掲げて、1カ月間のスパンで目標に向かって実行してみることが宿題とされました。

6月の第2部の合宿は、国立日高青少年自然の家で行われました。大学からは約2時間のバスの旅となり、バスの中で学生が、第1部の授業で立てた目標についてどのように取り組んできて、どこまで達

成できたかについて共有しました。あまり取り組むことができなかったという悔しい声があったり、計画通りに進んで良い自己評価をあげる学生もいて、お互いにとって刺激的な時間でした。

初日の合宿授業では、キャリア選択肢、キャリアイメージ、雇用事情等を含めて主に「社会を知る」セッションでした。グループワーク「AIに取って代わられる仕事」は、AIの発達によって約半分の仕事がなくなると予想されている近未来に、各大学の学生がそれぞれ専門を活かした職業の生き残る道を考えるきっかけとなりました。「社会に求められるキャリア・コンピテンシー」のセッションでは、各フェロー・教員がそれぞれ考え方を提示し、人生のぶれない軸の見つけ方など、学生とディスカッションを行いました。

夕食の後では「フェロー物語」という、フェローのプライベートな人生を含めてライフキャリアから学ぶセッションでした。キャリアとは何か、仕事と私生活の幸福とバランス、北大生としてのアイデンティティなどについて語り合いました。結果的に一見して成功したキャリアでも、振り返ってみると山あり谷ありの状況であり、困難を乗り越える鍵を見つける重要さを学び、キャリアや将来に不安を持っている学生にとって励ましの時間にもなりました。

合宿の2日目は、それまでのインプットを踏まえて、コンピテンシー・ホイール、目標設定シート等のツールを用いて、エンプロイアビリティを考えるグループワークをしました。学生は自分が将来どう

なっていたのか、そのためにはどんな職業を希望するのか、そのキャリアを形成するのに必要な能力とは何か、その能力を現在のどの程度持っているのか、それを身につけるには日々何をすればいいのかなどについて考える時間でした。最後に、長期目標からブレイクダウンして、日々の行動計画を立てました。

## 新渡戸学（セルフキャリア発展ゼミ）の特徴と意義

以上、授業の内容とコンセプトについて簡単に紹介させていただきましたが、キャリア形成支援セミナーとしての本ゼミの特徴を挙げたいと思います。

まずは、学生自らが目標を見つけて未来を構築していくことです。そして、学生自身が自らのアビリティやポテンシャルを評価します。自分自身と労働の世界を認識した上で、アイデアや選択肢に自ら気づき、自発的な行動を起こすことが目標です。あくまでも学生主体となりますが、学生が目標の実現に向かって考えて歩いていくプロセスにおいて、フェロー、教員が助言・伴走をし、コーチとしての役割を果たします。

また、本ゼミは単発のワークショップではなく、継続的に行なうことが、学生が定期的に自らの取り組みを振り返り・アセスメントをするきっかけとなります。これは、本ゼミで行われるフォローアップセッションだけでなく、新渡戸カレッジの対話プログラム等においても、フェローと学生との一対一の対話の機会もあります。

次に、北大卒業生であるフェローが参加していることです。昨今、日本の各大学でキャリア支援に関して様々な取り組みがなされています。実務経験のある社会人を招き、労働の世界での経験談などを取り入れるケースも増えてきています。一方で、新渡戸カレッジのフェローは北大の卒業生であることが特徴です。つまり、様々な分野で活躍されている社会人の実践知の提供のみならず、北大の卒業生が自らの学生時代を振り返りながらキャリアを語ることによって、北大生にとってより身近に感じることが出来るからです。それによって、学生が気づきを得られやすく、目標の実現に取り組む際の刺激になると考えられます。

最後に、本ゼミには多様なアクターがいることも挙げられます。前述のように、実践知やライフキャ

リアを持つフェロー、高等教育学やキャリア教育学の専門知を持つ教員のほか、学生支援員もいます。学生支援員は、本ゼミの2018年度履修生から選ばれています。海外留学、インターンシップ、ボランティア活動等様々な分野で活躍してきた上級生の学生支援員は、先輩として履修生に助言したり、学生間のロールモデルとしての役割を果たしています。これは、学生支援員のリーダーシップ力の発揮、ピアリーダー育成にもつながることが期待されます。

以上はキャリア形成の観点から本ゼミの特徴を述べましたが、新渡戸カレッジないし北大にとっての意義についても2点述べたいと思います。

まずは、何よりも自立・自律した学生の育成に役に立つことです。本ゼミはキャリア支援に関わる取り組みではありますが、自らの目標を実現させるための手法を習得し、継続的に取り組む習慣を身につけることは、長い人生のスパンの中でどの分野どの段階においても役に立つマインド・スキルの育成につながります。

また、新渡戸カレッジ・コミュニティの構築と持続性の向上に果たす役割が期待に値します。新渡戸カレッジのフェローが学生とともに一泊二日の合宿に参加することは、新渡戸カレッジのメンバーが親睦する機会にもなっています。濃密な議論の時間と気軽に会話する食事等の時間が重なることによって、フェローと学生との距離が縮んだことが実感されます。また、今年度から本ゼミには、新任のメンターが必ず参加することとなりました（新たなフェロー制度では、1年目は「メンター」といい、2年目以降、「フェロー」と呼びます）。かれらにとっては、初めて学生と接する機会となるため、学生の現状をよく理解し、ファカルティー・デベロップメント効果も期待されます。

## 参加学生の声

6月の授業が終わった後、学生が自分たちの学びについて振り返りました。なかには人生の過ごし方、キャリアの意義に関する感性的な側面で刺激を受けた学生や、目標設定の方法、専門の勉強の重要性等実用的な側面でヒントをもらえた学生もいました。最後に学生の感想を抜粋して記します。

将来の目標を最初は「獣医師」とだけ書いていた

が、何のために獣医師になるのかを考えた結果、「人と動物がお互い安全に、幸せに暮らせる社会を守る」ことであると考えた。私たちの社会生活を支えるために無くてはならない仕事は様々だが、獣医師を目指す機会を与えられている身として、人と動物が安全に共存できている社会を守るという形で社会に貢献したいという結論に至った。(中略) 合宿を通して自分が獣医師を目指す意味やモチベーションが以前より明確になり、今やるべきことも前向きに考えられるようになったと思う。(獣医学部2年)

フェローやメンターのお話を聞いたことです。数々の方の人生や会社経験を聞いたことでまず、以前よりも自分の将来をイメージしやすくなり、少し将来に対する不安がなくなりました。(工学部2年)

目標設定の方法(中略)このステップを踏むことで自分の将来像が前より具体的になったとともに、毎日やるべき事ははっきりさせ充実した生活ができ

るようになった。(中略) また、他の学生達に目標を共有することで、達成しなければならないという責任感を自らに植え付けることができた。他の生徒達の中には自分の学科の勉強に大いに興味を持ってやっている人が何名もおり、自分の専門で力をつけて将来にどう活かすかが非常に大事だと認識した。

(理学部2年)

フェロー、メンターの方々はどなたも、結果として自分の満足いくような、「成功」ともいえるようなキャリアをお持ちである。しかし、そんな方々はどなたも沢山の失敗(とそれに伴う精神的な落ち込み)を沢山経験していらっしゃる(中略)私には失敗・挫折の経験がないため、失敗を恐れ過ぎて(=悲観的過ぎて)挑戦できなかつたり、実力発揮できなかつたりすることがある。今回の学びをもとに、「失敗は成功のもと」という諺を常に意識し、失敗したときにも逃げることなく、それを成功へと変えていく方法を模索していくことができるようになりたい。(文学部3年)



写真1 フェロー&学生 アイスブレイク中



写真2 楽しくディスカッション



写真3 合宿 グループワーク



写真4 ディスカッションの内容発表

学生は4人ずつの小チームを結成し、引き続き目標に向けて研鑽しています。ピアサポートの効果に期待しつつ、アセスメントのためのフォローアップ

ゼミが9月と12月に実施される予定です。引き続きご注目いただければ幸いです。(肖 蘭)



写真5 夕食BBQ 協力して火おこし



写真6 参加者全員 記念写真

## 教育支援 EDUCATIONAL SUPPORT

### 1年生，3年生の自習時間

#### — 「平成30年度授業アンケート」と「2018年度学生調査」の結果より—

本学では、学生の自己評価として自習時間をたずねる2つのアンケートを実施しています。ひとつは全学教育で実施している「授業アンケート」で、授業1回当たりの自習時間をたずねています。回答数は毎年延べ3万件ほどになります。2つ目は、1年生と3年生を対象とした「学生調査」において、1週間当たりの自習時間をたずねています。近年の学生調査の回答回収率につきましては、1年生，3年生の全学生を対象にして10%台前半から30%程度です。特に3年生については回収率が比較的10%前半の回収率が続いています。自習時間は、単位の実質化の観点から、教育改善の重要な評価項目になりますので、調査結果をまとめて本ニュースレターで報告しています。

授業アンケートは、平成30年度2学期より紙媒体での調査からWeb上での調査に変更しました。それともない、後述するように回答傾向に変化が生じていますので、今回は1学期と2学期をまとめて集計しました。本調査は、全学教育担当教員へ年間最低1科目について実施するように依頼していま

す。しかし、Web上での調査においては、教員の指示の有無に関わらず、学生は回答できるようになっているため、教員が調査の実施を指示してなくても回答入力のある授業が存在していることが明らかになりました。そのため、2学期については、受講学生数の20%を超える回答があった授業を集計の対象としました。5つの回答選択肢「4時間以上(4)」、「3時間(3)」、「2時間(2)」、「1時間(1)」、「30分以下(0.25)」を括弧内の数値(単位：時間)に変換して平均自習時間を求めた結果、1.18時間でした。図1に過去からの平均自習時間の変化を示します。最近3年間を見ると、今回調査方法の変更があり1.18時間となり、調査開始以来最高だった前年度の1.28時間、調査用紙変更にもなう回答選択肢の誤認の影響がある前々年度の1.09時間と比較的変動が大きくなっています。単純に今回の結果を前年度と比較すると6分減となります。しかし、方法の変更等の影響で、結果を解釈することが難しい状況ですので、次に調査方法に変化のない学生調査の結果を用いて補足します。

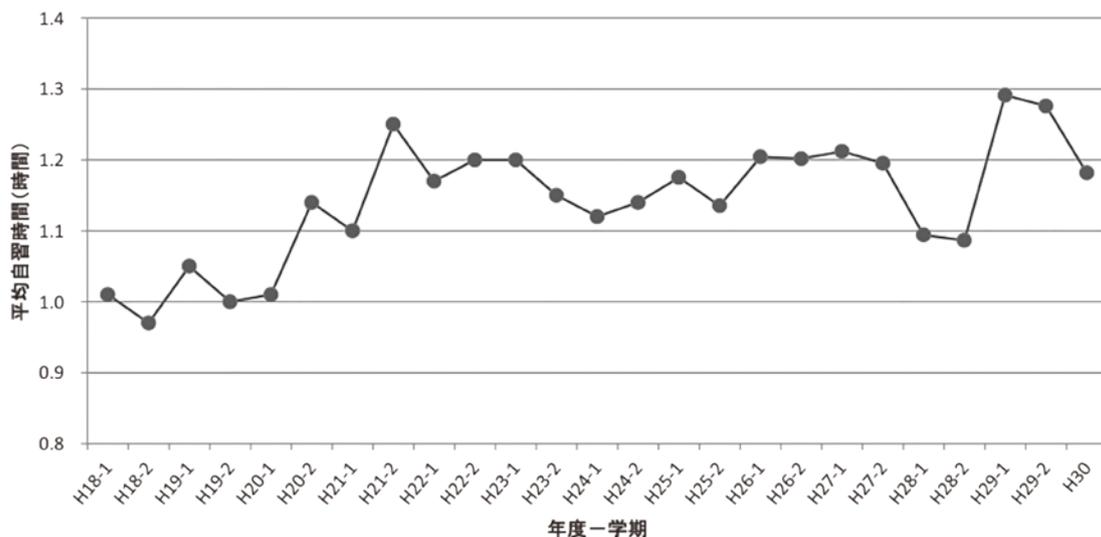


図1 授業1回あたりの自習時間の経年変化(授業アンケートより)

毎年2学期開始後に1年生と3年生を対象に実施している学生調査では、「授業時間外に、授業課題や準備学習、復習をする」1週間当たりの活動時間をたずねています。8つの選択肢「全然ない(0)」、「1時間未満(0.5)」、「1～2時間(1.5)」、「3～5時間(4)」、「6～10時間(8)」、「11～15時間(13)」、「16～20時間(18)」、「20時間以上(20)」を括弧内の数値(単位:時間)に変換して平均自習時間を求めました。その結果、1年生は8.5時間(前年比:12分減)、3年生は6.8時間(同:18分減)となりました(図2)。1年生については、2012年から約1時間増加していますが、最近4年間大きな変動はありません。3年生については、最近3年間減少を続

けており、今回初めて6時間台となりました。

続いて、所属学部(1年生の総合入試入学者については、入試区分別)により文系、理系に分類して見ていきます。1年生については(図3a)、理系に所属する学生の自習時間が文系に比べて長い傾向が続いています。文系は、最近3年間減少が続いており、今回の調査結果は、前年比約1時間減と大きく減少していますので、理系との差は過去最大で2.8時間となります。3年生については(図3b)、1年生ほどの差はありませんが、最近3年間理系が文系より自習時間が長い傾向を示しています。また、文系、理系ともに自習時間の減少傾向が確認できます。

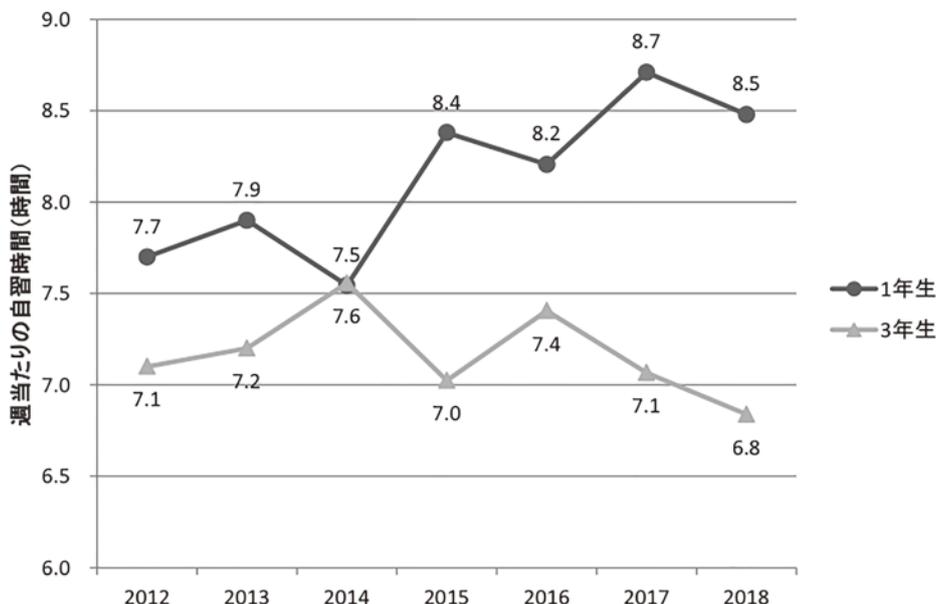


図2 1週間当たりの自習時間の経年変化(学生調査より)

学生の所属により文系と理系に分類し、分析した学生調査においては、理系の自習時間が文系よりも長い傾向が確認できます。では、科目毎の自習時間に文系、理系の差はあるのでしょうか？今回の授業アンケートの結果から見てみます。授業アンケートは、担当教員の所属により、文系と理系に分類しています。講義科目に限った文系と理系の平均自習時間は、それぞれ0.99時間、1.22時間となります。文系講義科目には外国語科目が含まれますが、外国語科目に限れば自習時間は1.31時間でした。外国語科目は、文系、理系に限らず全学生が履修しますので、文系講義科目からさらに外国語科目を除いた自習時間を比較対象とする必要があります。結果は、文系講義科目（外国語科目を除く）0.92時間、理系講義

科目1.22時間となります。18分の差です。これは、授業1回当たりの自習時間差ですので、複数科目を履修することを考慮すれば、文系と理系の自習時間に相当の差が生じることは理解できます。さらに授業アンケートの対象になっていない「自然科学実験」は、理系学生の必修科目になっており、レポート等の作成時間を自習時間に入れていると考えれば、さらに文系と理系の自習時間差が大きくなります。単位の実質化を厳密に考えれば、授業時間は同じですので、自習時間に科目間差があることは問題となります。容易な解決は難しいと思いますが、差を縮めるよう、文系、理系教員が交流し、授業方法などについて議論することも重要ではないでしょうか。

(宮本 淳)

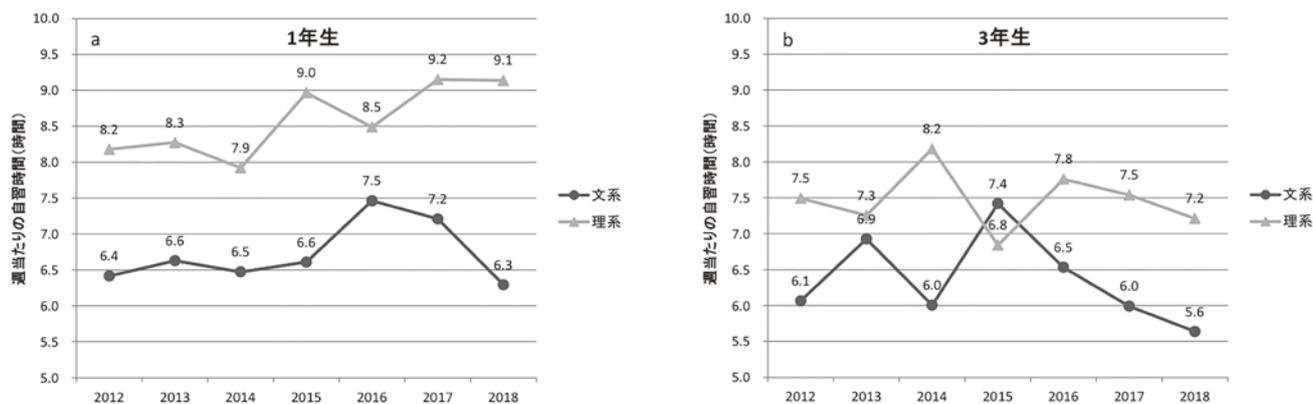


図3 文系/理系別1週間当たりの自習時間の経年変化 (a: 1年生, b: 3年生)

## 学生支援 STUDENT SUPPORT

### 2019年度夏季休暇中における「全学インターンシップ」を実施中

キャリアセンターと共同で、全学教育科目として「インターンシップA・B（国内）」を開講していますが、今年度についても夏季休暇を中心とした実施に向け、学生と企業の希望のマッチング、事前研修などを行いました。

今年度の学部、研究科・学院別、学年別の参加者数は表1のとおりです。

また、より充実したインターンシップを提供するため、昨年度は企業での実習期間を一昨年度までの

5日以上から8日以上とし、企業には負担増という結果になりましたが、概ね好評だったので、今年度も引き続き、8日以上としました。

参加が決まった学生に対しては7月2日、3日、9日、10日に講義形式の事前研修を実施し（写真1）、その後、1名15分あたりの個人面談も実施しました。この事前研修や個人面談では、インターンシップ先の企業・団体や業界等の研究を行うとともに、インターンシップを通じて検証したい仮説をイ

表1 全学インターンシップ参加者数

①学部

学部	1年	2年	3年	4年以上	計
文学部		1	9		10
教育学部			2		2
法学部		2	5		7
経済学部		3	9		12
理学部		1	1	1	3
医学部 保健学科			1		1
工学部		11	4		15
農学部			5		5
水産学部			2		2
総合理系	1				1
計	1	18	38	1	58

②大学院

研究科・学院	課程・学年	修士1年	修士2年	博士	計
農学院		1			1
総合化学院		1			1
環境科学院		3			3
理学院		1			1
計		6	0	0	6

インターンシップ前に設定し、インターンシップを通じてその検証を行う予定です。同時に、学生はインターンシップ先の企業等に対して連絡を取り、札幌近辺の場合は事前に訪問し、打ち合わせを行っています。仮説の検証や学生自らの連絡・打ち合わせの実施は、2週間程度という短期間のインターンシップの効果をより高めるため、北大独自の方式となっています。また、最近企業からの要望が多い守秘義務の徹底についてもこれまで以上に時間を割いて説明を行いました。さらには、昨年度のインターンシップ時期が北海道胆振東部地震と重なったこともあ



写真1 「全学インターンシップ事前研修」の様子

り、今年度はこうした天災などの場合の行動のあり方についても新たに説明を加えました。

さらには、一昨年度から新たな試みとして実施した「インターンシッププレ研修」も参加学生には好評だったので、今年度も、さらに回数を増やし、5月22日、25日、29日、7月17日の計4回実施しました。

5月22日のプレ研修①では、インターンシップ企業やプログラムの選び方、インターンシップ選考のための面接の準備の仕方などについて説明を行いました。5月25日のプレ研修②では、インターンシップや仕事で必須の要素を学べるグループワーク形式の研修を行い、参加企業からのフィードバックをいただきました(写真2, 3)。5月29日のプレ研修③では、公募型のインターンシップへの選考のためのエントリーシートの書き方などについて説明を行いました。7月17日のプレ研修④では、インターンシップで求められる社会人としての行動やマナーについて、株式会社マイナビの玉村太知氏を講師としてお招きし、お話をいただくとともに、マナーに関する実践練習を行いました(写真4, 5)。

これらを経て、参加学生はそれぞれの企業・団体で夏季休暇中にインターンシップ実習を行っています。

インターンシップ終了後には、1ヶ月以内に研修成果レポートを各自提出するとともに、10月25日には、参加学生の「インターンシップ成果発表共有会」を開催し、受入企業にも参加していただき、インターンシップの成果を共有する予定です。

(亀野 淳)



写真2 「インターンシッププレ研修②」の様子(グループワーク)



写真3 「インターンシッププレ研修③」の様子(発表)

写真4 「インターンシッププレ研修④」の様子1

写真5 「インターンシッププレ研修④」の様子2

## 一般教育演習「キャリアデザイン —自分の未来を自分で考えよう—」開講

本講義は、平成6年度より学部1年生を対象としたキャリア教育の一環として開講しています。入学後のできるだけ早期に自らのキャリアを考えるきっかけを与え、自らの目標に向かって前向きに勉学することを促すことを目的に、キャリア形成についての講義、グループワークなどのアクティブ・ラーニングを通じて、大学で「学ぶこと」と社会で「働くこと」の意義や関連性を考え、今後の自らのキャリアを考えるきっかけとすることができるような内容となっています。

今年度は、従来の特別講義から一般教育演習に移行し、よりアクティブ・ラーニングの要素を強めました。内容・スケジュールは表1のとおりですが、今年度の特徴として株式会社マイナビと連携をして、同社が企画するビジネスコンテストに応募しま

した。具体的には、Googleが提供した「AIを活用しあなたが関心のある社会課題の解決策を提案して下さい」というテーマに対して、4人程度のグループで企画書を提出し、審査されるというものです。全国からの応募の中から上位10位までに入ればさらなる投票によりトップ3が決定されることになっていましたが、残念ながら上位10位に入ったグループはありませんでした。しかしながら、「手話者をつなぐ同時通訳」という企画を提出したグループが11~20位に入り、佳作としてWebサイト上で紹介されました。今回は佳作1件でしたが、すべての学生が積極的に本テーマにチャレンジをしており、グループでの企画・ディスカッション、プレゼンテーションの能力が向上したと思われます。

(亀野 淳)

表1 2019年度 キャリアデザイン スケジュール

① 4月11日 (木)	○ガイダンス
② 4月18日 (木)	○受講にあたっての基本事項 ○キャリア概論Ⅰ「キャリアとは何か」(亀野講義)
③ 4月25日 (木)	○キャリアプランについての個人プレゼンテーション (1回目)
④ 5月9日 (木)	○「図書館情報入門」(情報教育館2階演習室C)
⑤ 5月16日 (木)	○テキストについての個人プレゼンテーション
⑥ 5月23日 (木)	○グループワーク1回目 ○自己分析(1回目)の実施
⑦ 5月30日 (木)	○キャリア概論Ⅱ「社会が求める人材とは」(亀野講義)
⑧ 6月6日 (木)	○グループワーク2回目
⑨ 6月13日 (木)	○グループワーク3回目(中間発表)
⑩ 6月20日 (木)	○グループワーク4回目
⑪ 6月27日 (木)	○グループワーク5回目(最終発表, 提出)
⑫ 7月4日 (木)	○キャリア概論Ⅲ(亀野講義)
⑬ 7月11日 (木)	○キャリアプランについての個人プレゼンテーション(2回目)
⑭ 7月18日 (木)	○グループワーク結果発表, 振り返り ○自己分析(2回目)の実施, 自己分析の見方説明
⑮ 7月25日 (木)	○最終まとめ

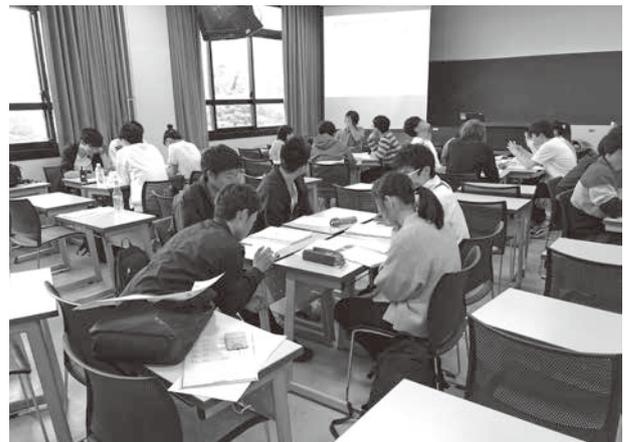


写真1 グループワークの発表の様子

## 日誌 EVENTS, April-July

### 4月

4月3日(行事)

新入生オリエンテーション, 総合教育部ガイダンス

3日~5日(研修)

平成31年度全学教育科目に係るTA研修会

3日, 5日(行事)

新渡戸カレッジ基礎プログラム入校説明会(大学院)

6日(行事)

新渡戸カレッジ基礎プログラム入校説明会(学部)

8日(行事)

全学教育部 第1学期授業開始日

12日(行事)

新渡戸カレッジ仮入校合格発表(学部)

- |                |                                   |                                                                             |
|----------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------|
| 12日～17日 (会議)   | 平成31年度第1回高等教育推進機構<br>運営委員会 (持ち回り) | 国家公務員総合職第2次試験直前対<br>策会                                                      |
| 15日～7月22日 (行事) | 教員志望者ガイダンス (第5～11講<br>目)          | 14日 (会議) 入学者選抜委員会                                                           |
| 17日 (会議)       | ELMS定例会, オープンエデュケー<br>ションセンター連絡会  | 15日 (会議) ELMS定例会, オープンエデュケー<br>ションセンター連絡会                                   |
| 18日 (行事)       | インターンシップではじめる! 就活<br>準備ガイダンス      | 17日～18日 (研修)                                                                |
| 20日 (行事)       | 新渡戸カレッジプレイズメントテス<br>ト (大学院)       | 第38回北海道大学教育ワークショッ<br>プ「アクティブラーニング授業への<br>転換」(高等教育研修センター)                    |
| 20日 (行事)       | 新渡戸カレッジ仮入校プレイズメン<br>トテスト (学部)     | 20日 (会議) 第99回教務委員会                                                          |
| 20日～21日 (行事)   | 新渡戸カレッジ第1回対話プログラ<br>ム (学部)        | 20日 (会議) 第1回総合教育教務・学生専門委員<br>会 (持ち回り)                                       |
| 24日～25日 (行事)   | 新渡戸カレッジオーナーズプログラム<br>ガイダンス (学部)   | 22日 (行事) インターンシッププレ研修第1回                                                    |
| 25日 (会議)       | 第1回教育改革室会議                        | 23日 (行事) 第1回新渡戸カレッジ特別講演会<br>(学部)                                            |
| 26日 (会議)       | 第1回学生委員会                          | 23日～24日 (会議)                                                                |
| 26日 (会議)       | 第1回新渡戸カレッジ定例会(学部)                 | 令和元年度国立大学教養教育実施組<br>織会議 (大分)                                                |
| <b>■ 5月</b>    |                                   | 24日 (会議) 第2回教育改革室会議                                                         |
| 5月8日 (行事)      | 新渡戸カレッジ基礎プログラム合格<br>発表 (大学院)      | 24日 (会議) 令和元年度北海道FD・SD協議会幹<br>事会                                            |
| 8日 (会議)        | 第1回新渡戸カレッジ運営会議学部<br>教育コース教務専門委員会  | 24日 (研修) ELMS講習会～授業でELMSを活用<br>する～【入門編】(高等教育研修セ<br>ンター)                     |
| 8日 (会議)        | 第1回新渡戸カレッジ運営会議大学<br>院教育コース教務専門委員会 | 24日 (講演) 講演会「アクティブラーニング授業<br>の実践と普及に向けた諸課題」(高<br>等教育研修センター)                 |
| 10日 (会議)       | 新渡戸カレッジフェロー交流・研究<br>会 (学部)        | 25日 (行事) インターンシッププレ研修第2回                                                    |
| 10日 (会議)       | 第1回新渡戸カレッジ運営会議                    | 26日 (行事) 第106回サイエンス・カフェ札幌「ビ<br>バ! アラスカ地球紀行～文化人類学<br>者が考える「人新世」とのつきあい<br>方～」 |
| 10日 (会議)       | 北海道FD・SDフォーラム2019実行<br>委員会        | 27日 (説明会) 国際共同教育プログラム学内説明会                                                  |
| 11日 (講演)       | CoSTEP開講特別プログラム「科学<br>を物語る」       | 28日 令和2年度AO入試・国際総合入<br>試・帰国子女入試学生募集要項公表                                     |
| 11日 (行事)       | 新渡戸カレッジ入校式                        | 29日 (会議) 第1回新渡戸カレッジ執行部会                                                     |
| 11日 (行事)       | 新渡戸Day (学部)                       | 29日 (行事) インターンシッププレ研修第3回                                                    |
| 13日～17日 (行事)   |                                   | 31日 (行事) 留学生のための就職活動オールガイ<br>ド講座1                                           |

## ■ 6月

- 6月5日(会議) 第1回全学教育委員会
- 5日(会議) オープンエデュケーションセンター連絡会
- 7日(会議) 第2回新渡戸カレッジ執行部会
- 8日(研修) 新渡戸カレッジ教員対象FD研修(大学院)
- 11日(講演) 講演会「学習評価の基本」(高等教育研修センター)
- 12日(会議) ELMS定例会
- 13日(会議) 令和元年度第2回高等教育推進機構運営委員会
- 15日(行事) 新渡戸カレッジ専門職倫理セミナー2019(大学院)
- 18日(行事) 北海道大学入試改革フォーラム2019
- 18日(会議) 令和元年度北海道FD・SD協議会総会
- 20日(講演) 講演会「現代の学生理解～学生相談室から見る学生の悩みと成長～」(高等教育研修センター)
- 21日(行事) 日本で就職するための留学生ガイダンス
- 22日(研修) 研究者のためのプレゼンテーション研修【入門編】(高等教育研修センター)
- 25日(会議) 全学教育科目責任者会議(外国語科目)
- 27日(研修) ルーブリック評価作成ワークショップ【入門編】(高等教育研修センター)
- 28日(会議) 第2回新渡戸カレッジ定例会(学部)
- 29日～30日(行事) 新渡戸カレッジ第2回対話プログラム(学部)
- 4日(研修) 研修会「学生対応の基本～日常的学生支援の視点から～」(高等教育研修センター)
- 5日(会議) 第3回新渡戸カレッジ執行部会
- 5日(行事) 学部1・2年生のための「ちょっと立ち止まって将来をデザインするガイダンス」
- 6日(研修) 事務職員のためのプレゼンテーション研修【入門編】(高等教育研修センター)
- 7日(説明会) 全国国公立・有名私大相談会2019(東京)
- 8日(会議) 全学教育科目責任者会議(文系基礎科目)
- 10日(会議) 全学教育科目責任者会議(理系基礎科目)
- 10日(会議) ELMS定例会
- 12日(会議) 第1回授業評価専門部会
- 12日(会議) 第1回新渡戸カレッジ運営会議広報・システム専門委員会
- 12日 令和2年度入学者選抜要項公表
- 13日(説明会) 全国国公立・有名私大相談会2019(大阪)
- 13日(行事) コラボレーション企画 弦巻楽団×北海道大学 CoSTEP「私たちが機械だった頃」
- 16日(行事) 第107回サイエンス・カフェ札幌特別編「北海道大学が紐解くテオ・ヤンセンの世界」
- 17日(会議) オープンエデュケーションセンター連絡会
- 17日(行事) インターンシッププレ研修第4回
- 18日(説明会) 北海道大学入試説明会(高校教諭対象)
- 19日～20日(行事) 合同企業説明会
- 22日～24日(講座) 大学教員準備講座～Future Faculty Development Program～(高等教育研修センター)
- 23日(研修) ワークショップ「学生とともに歩む～多様な学生のクラスを導く～」(高等教育研修センター)

## ■ 7月

- 7月1日～22日(行事) 北海道大学公開講座(全学企画)
- 2日(研修) ハラスメント防止研修会(高等教育研修センター)
- 4日(会議) 第1回成績評価結果検討専門部会

- |          |                                                              |           |                                                           |
|----------|--------------------------------------------------------------|-----------|-----------------------------------------------------------|
| 24日 (会議) | 第2回全学教育委員会                                                   | 27日 (説明会) | 全国国公立・有名私大相談会2019<br>(名古屋)                                |
| 24日 (会議) | 第1回総合教育移行専門委員会                                               | 28日 (説明会) | 全国国公立・有名私大相談会2019<br>(横浜)                                 |
| 25日 (講演) | 講演会「キャンパスにおける心のケア」(高等教育研修センター)                               | 30日 (会議)  | 第2回学生委員会                                                  |
| 26日 (講演) | 講演会「学生が学んでいるのかをどう把握するか～授業中の教授・学習に関するフィードバックを得る～」(高等教育研修センター) | 30日 (行事)  | オープンエデュケーションセンター<br>セミナー2019—ラーニング・スペースとラーニング・アナリティクスの動向— |
| 26日 (講演) | 講演会「高等教育における国際化のアプローチ」(高等教育研修センター)                           | 31日 (研修)  | 医歯薬保健分野対象ルーブリック評価活用ワークショップ【発展編】(高等教育研修センター)               |
| 26日 (会議) | 第3回新渡戸カレッジ定例会(学部)                                            |           |                                                           |
| 27日 (会議) | 第1回新渡戸カレッジ運営会議評価委員会                                          |           |                                                           |

## 行事予定 SCHEDULE, September-December

### ◆9月

- 25 (水) ISP入学式
- 25 (水) 午後  
学部・学科等移行ガイダンス
- 26 (木) 学部・学科等紹介
- 27 (金) 第2学期授業開始日
- 27 (金) ~10/3 (木)  
学部・学科等移行手続き(予備志望調査)
- 27 (金) ~10/3 (木) 抽選科目の申込期間

### ◆10月

- 7 (月) 抽選科目の結果発表日及び追加申込日
- 7 (月) 予備志望調査結果発表

8 (火) ~15 (火)

履修登録

23 (水) ~24 (木)

履修時間割確認期間

### ◆11月

- 25 (月) ~27 (水)  
履修登録科目の取消期間

### ◆12月

- 2 (月) ~4 (水)  
自由設計科目登録変更期間
- 26 (木) ~1/3 (金)  
冬季休業日

**ニュースレター 2019, No.115 目次**

<p>(巻頭言) 新渡戸カレッジとスクールの統合                  …………… 山口 淳二 1</p> <p>特別講義「グローバル基礎科目」の紹介 …………… 4</p> <p>新渡戸カレッジ 新渡戸学(セルフキャリア発展ゼミ)                  …………… 7</p> <p>1年生, 3年生の自習時間                  —「平成30年度授業アンケート」と「2018年度学生                  調査」の結果より— …………… 11</p>	<p>2019年度夏季休暇中における                  「全学インターンシップ」を実施中 …………… 13</p> <p>一般教育演習「キャリアデザイン                  —自分の未来を自分で考えよう—」開講 …………… 15</p> <p>日誌 …………… 16</p> <p>行事予定 …………… 19</p> <p>目次・編集後記 …………… 20</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**編集後記**

北海道の夏は短いです。お盆過ぎには涼しくなるので、ビアガーデンに行こうと思っていたらいつの間にか秋の気配が・・・という年もあります。短い夏ですが、最近はエアコンが必要なくらい暑い日もあります。たしかに、研究室は西日が当たるため、カーテンを閉めていても蒸し風呂状態です。部屋の温度計は窓用エアコンを稼働させていても常に30度を超えています。ただ、暑いと思って窓を開けて寝ると、明け方冷えて風邪をひいてしまうこともあります。日向と日陰、昼と夜、さまざまな条件でこれほど気温(体感温度)が変わるのか、だからメロンは甘いんだ!、と実感する夏です。(グレッチ)

**ニュースレター**

(北海道大学高等教育推進機構広報誌)  
 通算 **第115号**

発行日： 2019年8月31日  
 発行元： 北海道大学高等教育推進機構  
 〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目  
 編集委員：◎細川敏幸・鈴木誠・飯田直弘・岩間徳兼  
 ご意見、お問い合わせは◎印の編集委員まで  
 電話 (011)706-7514, FAX (011)706-7521  
 インターネットホームページ：  
<https://www.high.hokudai.ac.jp/center/>